

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2016年度 共同研究成果報告書〔研究資源活用型〕

2017年 月 日 提出

1. 研究課題名	
長江家住宅の北棟の修復調査 (英文標記:A remedial research on the northern building of Nagae-ke residence)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)たかぎ よしえ	所属機関・職名
高木 良枝	立命館大学・客員研究員
3. 研究分担者 (合計: 5名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
日向進(ひゅうがすすむ)	NPO 法人古材文化の会会長 京都工芸繊維大学名誉教授
仲隆裕(なかたかひろ)	京都造形芸術大学 教授
関根秀雄(せきねひでお)	フージャースコーポレーション建築統括部 部長
佐藤弘隆(さとうひろたか)	立命館大学大学院文学研究科・D2
矢野桂司(やのけいじ)	立命館大学文学部・教授

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>京都市指定有形文化財 長江家住宅の北棟について、現在は内装の改変や一部増床などの著しい変更がみられる。これらを今後修復していくことを目的に、それに関する文書及び図面資料の読み解き調査を行い、元々の姿について検討を行う。</p> <p>建築、庭園等の専門領域から確認し、ワーキングの場を持ちながら分析をすすめ、今後行われる修復工事に分析内容を反映させていく。</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

長江家住宅の変遷が描かれた大正期や昭和後期の絵図や図面の情報を参考に、建築当時の状況や明治大正時期に変更されたであろう部分を分析した。同時並行で建物内部の痕跡調査を実施し、痕跡からも改変前の状態を調査したが、過去の図面類が結論を出し切れない部分を補てんする貴重な情報となった。

また、庭園調査においても、実測調査図面と過去の図面を重ねて飛び石の設置位置を検討したり、当時の建築資材などを記した資料から、庭木の樹種が判明したりと、修復内容を検討する上での参考になった。